

日本環境変異原学会第44回大会  
採択演題一覧

(敬称略)

ポスター プログラム番号	一般講演			演題 登録番号	筆頭著者			演題名(日)
	プログラム番号	セッション名	セッション内 発表順番 (6名中)		姓	名	ご所属1	
P-001	O-04	一般講演1	4	2053	福本	航大	大阪府立大学 理学系研究科	CRISPR/Cas9法によるDNAポリメラーゼ $\eta$ 、 $\kappa$ およびヌクレオチド除去修復を欠損する細胞の作製と芳香族炭化水素誘発突然変異の解析
P-002				2064	増田	雄司	名古屋大学 環境医学研究所 ゲノム動態制御分野	PCNAとヒトDNAポリメラーゼ $\eta$ の相互作用
P-003				2049	本山	茂記	中外製薬株式会社 研究本部	DNA polymerase kappa[ <i>in vivo</i> ]において、cisplatinに対する損傷乗り越えDNA複製に関与する
P-004				2085	藤川	芳宏	大阪大学大学院 医学系研究科	TALENsを利用したメダカTLSポリメラーゼ遺伝子群変異体の網羅的作製
P-005	O-05	一般講演1	5	2031	佐々	彰	国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部	ヌクレオチド除去修復は酸化的クラスターDNA損傷によって誘発される突然変異を抑制する
P-006				2015	寺東	宏明	佐賀大学 総合分析実験センター	水中放電プラズマによって生じるDNA損傷とその変異原性
P-007				2010	鈴木	雅代	徳島文理大学香川薬学部 分子生物学講座	オキサソロン連続配列がDNA合成に与える影響
P-008				2026	根岸	友恵	岡山大学大学院 歯歯薬学総合研究科(薬学系)	アルキル化剤の変異誘発におけるミスマッチ修復の関与
P-009				2056	KIM	JUNGIN	大阪大学基礎工学研究科	ヒトエンドヌクレアーゼVの機能的解析
P-010				2059	角田	圭	京都大学原子炉実験所 放射線生命科学研究部門	DT40ノックアウト細胞パネルを用いたグルコース枯渇下で細胞致死作用を持つBiguanide2種の作用機序の解析
P-011				2061	中沢	由華	長崎大学 NRGIC/原爆後障害医療研究所(原研修復)	XRCC4欠損性遺伝性疾患の病態解析
P-012				2090	岡	泰由	名古屋大学環境医学研究所 発生遺伝分野	ファンconi貧血経路におけるユビキチン様タンパク質UBL5の役割
P-013				2103	神代	紗央理	茨城大学大学院 理工学研究科	電離放射線への子ども被ばく後のマウスにおけるepi遺伝子での変異の解析
P-014				2014	楊	光	静岡県立大学 薬食生命科学総合学府 環境生命科学専攻	タバコ副流煙暴露による紫外線DNA損傷修復の遅延とアルデヒド類の関連性
P-015				2021	黒田	真未	大阪大学大学院基礎工学研究科	Human EEPD1の細胞内局在の解析
P-016				2024	荻野	真宏	静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府環境科学専攻	熱ストレスによるヒストンH2AXのリン酸化とその機構
P-017				2029	佐々	彰	国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部	ヒトリンパ球細胞のゲノムに導入したシトシン修飾体の潜在的な突然変異誘発能
P-018				2069	西村	美起	国際基督教大学大学院 アーツ・サイエンス研究科	高度好熱菌の脱アミノ化ヌクレオチド浄化酵素Ham1の機能とゲノム安定化における役割
P-019				2078	小野坂	規賀子	国際基督教大学教養学部 アーツ・サイエンス学科	高度好熱菌Thermus thermophilusのゲノム安定性におけるGOシステムの役割
P-020				2095	鷹野	典子	九州大学大学院医学研究院基礎放射線医学分野	MUTYH欠損マウスを用いた酸化ストレス誘発消化管がんと体細胞突然変異の解析
P-021	O-06	一般講演1	6	2047	杉山	圭一	国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部	酵母をプラットフォームとしたエピジェネティック変異原検出系構築の試み
P-022				2106	鈴木	武博	国立環境研究所 環境健康研究センター	Fosb発現とDNAメチル化変化の対応関係を検討する実験系の探索
P-023				2087	大場	謙一	北里大学医療衛生学部 健康科学科	ヒトエストロゲンレセプターアルファ遺伝子のメチル化修飾と骨代謝との関係について
P-024				2009	中野	敏彰	広島大学理学研究科	DNA損傷依存のおよび非依存性アルデヒドの細胞毒性発現機構
P-025	O-02	一般講演1	2	2077	織田	信弥	国立病院機構九州がんセンター 臨床研究センター腫瘍遺伝学研究室	ヒト大腸癌ゲノムにおける遺伝子変異の出自

ポスター プログラム番号	一般講演			演題 登録番号	筆頭著者			演題名(日)
	プログラム番号	セッション名	セッション内 発表順番 (6名中)		姓	名	ご所属1	
P-026	O-07	一般講演2	1	2052	金山	尚裕	大阪府立大学大学院 理学系研究科	フレームシフト型および塩基置換型突然変異を検出する部位特異的修飾プラスミドの作製とヒト細胞における芳香族炭化水素付加体のTLS解析
P-027				2071	福岡	紀実子	横浜市立大学大学院・生命ナノシステム科学研究科・生命環境システム科学専攻	DNAアダクトミクスによる過酸化水素曝露後のPAH分解細菌細胞に生じるDNA付加体の研究
P-028				2081	大西	志保	鈴鹿医療科学大学 薬学部	ビグアニド系糖尿病治療薬による酸化的DNA損傷増強効果
P-029				2003	高井	真理子	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	注射薬中から検出された重合開始剤の光変異原性に関する研究
P-030				2101	下位	香代子	静岡県立大学 大学院 薬食生命科学総合学府	化学物質の投与時刻が小核誘発頻度に及ぼす影響
P-031				2104	金	佑香	麻布大学	国内数地点で採取したPM2.5の変異原性
P-032				2016	関	博	株式会社ビー・エム・エル 第二検査部 安全性試験課	培養細胞を用いる染色体異常試験における回復時間の影響について(パート5)
P-033				2043	小池	真悠理	東京理大薬	$\omega$ -Carboxyalkylnitrosamine類の変異原性発現
P-034				2058	石井	雄二	国立医薬品食品衛生研究所 病理部	遺伝毒性肝発がん物質エストラゴールの突然変異誘発性におけるフルメキン併用投与の影響
P-035				2066	高須	伸二	国立医薬品食品衛生研究所 病理部	gpt deltaマウスを用いたdecabromodiphenyl etherのin vivo遺伝毒性の検討
P-036				2093	奥野	祥治	和歌山工業高等専門学校 物質工学科	肝酵素によるSafral代謝の立体選択性とDNA損傷への影響
P-037				2100	日高	京子	北九州市立大学基盤教育センター	心臓発生に影響する遺伝毒性物質スクリーニングをめざした多能性幹細胞分化系の開発
P-038				2020	園原	由依菜	大阪大学大学院 基礎工学研究科	RNA合成阻害に基づいたin vitroにおけるDNA損傷検出法の構築
P-039				2027	川喜多	愛	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科	マウスm5SのS期可視化細胞を用いた変異原物質の作用時期と小核形成のライブセルイメージング解析
P-040				2036	岡田	恵美子	㈱ヤクルト本社 中央研究所	ラット消化管小核試験系の構築・異数性誘発物質を用いた検証
P-041				2039	繁多	敬久	京都薬科大学 薬学科	都市圏及び非都市圏における表層土壌及び大気粉塵の変異原物質による汚染
P-042				2063	橋本	清弘	武田薬品工業株式会社 薬剤安全性研究所	In vitro小核試験における画像解析装置及びフローサイトメーターの利用
P-043				2084	萩尾	宗一郎	日産化学工業株式会社 安全性研究部	gpt deltaマウスの生殖細胞におけるアクリルアミド誘発突然変異の解析
P-044				2097	本田	大士	花王株式会社 安全性科学研究所	染色体異常試験の陽性物質リストから有用な偽陽性原料を救えII-数学的手法を用いた大規模選別及評価-
P-045				2004	市原	英則	岡山大学薬学部	タバコ副流煙の変異原性に対する光照射の影響
P-046				2007	佐々木	俊明	中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター 病理検査部 培養細胞試験室	動物発がん物質 N,N-ジメチルホルムアミドとN,N-ジメチルアセトアミドのin vitro発がん
P-047				2011	小田	美光	大阪信愛学院短期大学	常圧常温プラスマ(ARTP)と従来の突然変異によるDNA損傷と突然変異率の定量的評価
P-048				2028	坪倉	美文	一般財団法人 化学物質評価研究機構 日田事業所 試験第三課	各種Ames試験法における揮発性化学物質のばく露濃度(気・液・固相分配)の実測検証
P-049				2034	鈴木	哲矢	広島大学 医歯薬保健学研究院 薬学分野	二酸化チタンナノ粒子を尾静脈投与したマウスにおける肝臓での遺伝毒性
P-050				2045	川上	久美子	一般財団法人食品薬品安全センター 秦野研究所	アミノ酸含有物質のための改良Ames試験(Treat & Wash法)の検討III

ポスター プログラム番号	一般講演			演題 登録番号	筆頭著者			演題名(日)
	プログラム番号	セッション名	セッション内 発表順番 (6名中)		姓	名	ご所属1	
P-051				2050	根岸	沙記	一般財団法人食品薬品安全センター 秦野研究所	大腸菌WP3101P~WP3106P株を用いたアミノ酸含有物質の変異原性評価
P-052				2055	吉田	しのぶ	独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター	酸クロライドの溶媒によるAmes試験結果への影響
P-053				2065	辻	菜穂	日産化学工業株式会社 安全性研究部	成獣ラットを用いた単回投与によるコメットアッセイ及び免疫組織化学的検索
P-054				2073	兼丸	祐紀	日本たばこ産業株式会社 R&Dグループ 製品評価センター	たばこ煙抽出物の遺伝毒性機序に関する基礎的検討-小核試験と遺伝子突然変異試験結果の類似性から-
P-055				2076	小山	直己	エーザイ株式会社 筑波安全性研究部	デキストラン硫酸ナトリウムの大腸炎誘発モデルマウスを用いたヘテロサイクリックアミンによる大腸腫瘍誘発
P-056				2082	秋場	望	国立がん研究センター研究所	職業性胆管癌の候補物質、ジクロロメタン及び1,2-ジクロロプロパンの変異原性に対するグルタチオン-S-転移酵素の影響
P-057				2088	古熊	俊治	株式会社UBE科学分析センター	ベンゾピレン誘発in vitro小核試験におけるTK6細胞とCHL/1U細胞間の比較
P-058				2098	豊岡	達士	独立行政法人労働安全衛生総合研究所 健康障害予防研究部	リン酸化ヒストンH2AXを指標とした化学物質遺伝毒性評価手法構築に関する基礎的検討
P-059				2099	藤田	侑里香	花王株式会社 安全性科学研究所	部分的化学構造(Organic Function Groups)を用いたin vitro CA/MN試験結果の予測
P-060				2105	武下	健次	株式会社UBE科学分析センター	clastogenが誘起するTK6、CHL/1U及びL5178Yの細胞核の肥大化
P-061				2006	有元	佐賀恵	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 薬学系	サルナン(A. arguta)の酢抽出物による、ラット大腸がん前癌病変(ACF)誘発抑制
P-062				2013	佐々木	蓉子	麻布大学 生命・環境科学部	100%濃縮還元果汁抽出物の抗変異原性
P-063				2042	河合	佑季	京都薬科大学 公衆衛生学分野	茶中の3,6-Dinitrobenzo[e]pyreneの定量及び茶の抗変異原性
P-064				2067	北村	祐貴	三重大学大学院 医学系研究科	NNK誘導マウス肺がんに対するサルナン果汁の肺発がん抑制効果における比較プロテオミクス解析
P-065				2068	山本	歩	八戸工業高等専門学校 産業システム 工学科マテリアル・バイオ工学コース	出芽酵母突然変異系を用いたChrysanthemum morifolium 花抽出物の抗変異原性効果の評価
P-066				2037	中島	裕夫	大阪大学大学院 医学系研究科 放射線基礎医学	セシウム137の慢性的経口摂取で多世代にわたり低線量・低線量率内部被ばくを続けた子孫マウスのゲノムへの影響
P-067				2102	大野	みずき	九州大学 大学院医学研究院 基礎放射線医学分野	ミスマッチ修復欠損マウスにおける生殖細胞ゲノム変異の解析
P-068				2023	増村	健一	国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部	マウス全エキソーム解析によるENU誘発生殖細胞変異スペクトルの解析
P-069				2062	作見	邦彦	九州大学 生体防御医学研究所	生殖細胞自然突然変異の新規発生と変異アレルの伝達
P-070				2089	笹谷	めぐみ	広島大学原爆放射線医科学研究所 分子発がん制御	発がん高感受性マウスを用いた化学発がん、放射線発がん機構の解明
P-071				2018	長谷井	友尋	京都薬科大学 公衆衛生学分野	食品中の新規ヘテロサイクリックアミンABAQの分析
P-072				2012	堀端	克良	国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部	Pig-a/PIGRETアッセイの短期試験としての有用性:MMS共同研究報告
P-073				2005	京谷	恭弘	クマイ化学工業株式会社 生物科学研究所	MMS/Pig-aアッセイ共同研究: Melamineの遺伝毒性評価
P-074				2008	前田	晃央	東レ株式会社 医薬研究所安全性研究室	Chlorambucilを用いたラット単回投与によるPig-a/PIGRETアッセイの有用性の検討
P-075				2033	鈴木	裕太	株式会社ボソリサーチセンター	Pig-aアッセイ共同研究:アセトアミノフェン及びシスプラチン

ポスター プログラム番号	一般講演			演題 登録番号	筆頭著者			演題名(日)
	プログラム番号	セッション名	セッション内 発表順番 (6名中)		姓	名	ご所属1	
P-076				2040	加藤	竜也	田辺三菱製薬株式会社 安全性研究所	MMS/Pig-a共同研究: MNUおよびtemozolomideの変異原性評価
P-077				2048	足立	秀樹	大日本住友製薬株式会社	RBC Pig-a assay及びPIGRET assay によるHydoxyurea 及びMelphalan のin vivo変異原性の評価
P-078				2054	成見	香瑞範	ヤクルト本社 中央研究所	ウレタンのラット末梢血におけるPig-a遺伝子突然変異誘発性: MMS共同研究の個別報告
P-079				2057	菊月	隆太	大正製薬株式会社	ベンゾ[a]ピレンを用いたPig-aアッセイ及びPIGRETアッセイ: MMS共同研究の個別報告
P-080				2060	吉田	唯真	武田薬品工業株式会社 医薬研究本部薬剤安全性研究所	MMS/Pig-a共同研究: Pig-a及びPIGRETアッセイによるアザチオプリンin vivo変異原性評価
P-081				2080	山本	美佳	アステラス製薬株式会社 研究本部安全性研究所	Pig-aおよびPIGRET assayによるエトポシドのin vivo 遺伝子突然変異試験
P-082				2091	真田	尚和	科研製薬株式会社 薬物動態・安全性部	PIGRET及びRBC pig-a法を用いたAAs及びAZTのin vivo変異原性評価
P-083				2094	志賀野	美幸	株式会社LSIメディエンス	2-acetylaminofluorene及び1,3-propane sultoneのPig-a/PIGRETアッセイによる評価: JEMS・MMS共同研究
P-084				2017	堤	絵梨	サントリービジネスエキスパート株式会社 安全性科学センター	Pig-a/PIGRETアッセイによるThiotepaのin vivo変異原性の検出
P-085				2035	千蔵	さつき	帝人ファーマ株式会社 生物医学総合研究所 医薬開発研究所	Isopropyl p-toluenesulfonateのラットPig-aアッセイ-JEMS/MMS共同研究 (Step 3)
P-086	O-10	一般講演2	4	2032	川崎	祐也	産業医科大学産業生態科学研究所 職業性腫瘍学	禁煙による8-OHdG量の低減
P-087				2044	李	云善	産業医科大学・産業生態科学研究所 職業性腫瘍学	ナノ粒子によるラット肺組織の酸化型DNA損傷
P-088				2019	森田	健	国立医薬品食品衛生研究所 安全性予測評価部	In vitroおよびin vivo遺伝毒性試験の組合せによる齧歯類発がん物質の検出力
P-089				2022	渡辺	雅彦	就実大学 薬学部	喫煙による突然変異と発がんリスクの量的関係
P-090	O-08	一般講演2	2	2070	青木	康展	国立環境研究所 環境リスク研究センター	都市大気浮粒子抽出物がgpt deltaマウス肺で示す変異原性と突然変異スペクトル
P-091				2051	山田	雅巳	国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部	ICHガイドラインS2(R1)におけるin vivo試験組合せの検討
P-092	O-09	一般講演2	3	2041	武藤	重治	田辺三菱製薬株式会社	小核誘発メカニズム解析法の検討: siRNAによるキナーゼ機能阻害
P-093				2002	須藤	鎮世	就実大学 薬学部	ネヴァダに黒い雨は降らない: 予測より強い放射線を浴びた被爆者はホルメシスを示し閾値なしを否定
P-094	O-12	一般講演2	6	2030	松田	知成	京都大学	SMRT DNAシーケンサーを用いた突然変異検出法の開発
P-095				2072	鈴木	孝昌	国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部	次世代シーケンサーを使った突然変異の直接検出
P-096				2074	降旗	千恵	国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部	次世代シーケンサーによる全ゲノム解析を用いたヒト細胞のSNP探索とゲノム構造変化の解析
P-097				2046	須井	哉	一般財団法人食品薬品安全センター 秦野研究所 遺伝学研究室	ハイ・スループット微生物遺伝毒性試験法の検討10
P-098	O-11	一般講演2	5	2038	松田	俊	京都大学 工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター	LC/MS/MSを用いたDNA修復・損傷応答タンパク質及びヒストン修飾の絶対定量
P-099	O-01	一般講演1	1	2079	岡	素雅子	九州大学 生体防御医学研究所 脳機能制御学分野	MUTYHによる塩基除去修復過程に依存して誘導される細胞死はp53の発がん抑制機構の1つとして機能する
P-100				2096	李	贊	九州大学大学院 医学研究院 基礎放射線医学分野	Trp53欠損マウスにおける酸化ストレス誘発消化管がんの解析
P-101	O-03	一般講演1	3	2083	落合	雅子	国立研究開発法人 国立がん研究センター 研究所・基盤的臨床開発研究コアセンター(FIOC)・動物実験部門	マウス正常上皮細胞の3次元培養法を用いるin vitro発がんモデルの開発
P-102				2086	松下	幸平	国立医薬品食品衛生研究所 病理部	F344系gpt deltaラットの自然発生腫瘍スペクトラム
P-103				2001	趙	暁旭	静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府	銀ナノ粒子と紫外線の組み合わせによる酸化型DNA損傷の増加とヒストンH2AXのリン酸化